

I部 地域食料資源の持続 的な利用と管理をめざして

地域社会とコモンズ



「コモンズのドラマ」への の着目

使用テキスト: 井上真編著「コモンズの社会学」
序章 自然資源の共同管理制度としてのコモンズ
(テキスト引用のページは、(テ)と表示してある)

井上真 「自然資源の共同管理システムとしてのコモンズ」より

要旨:

焼畑農業がもっていた持続性が失われている。その要因は人口増加だけでなく、経済・社会・文化の変容のなかで説明されなければならない。コモンズへの視覚は、所有制度から管理制度へと移すべきで、その定義を「自然資源の共同管理制度、及び共同管理の対象である資源そのもの」とする。

コモンズには、グローバル・コモンズ、ローカル・コモンズがあり、「コモンズ(共有)の悲劇」はグローバル・コモンズとルースな管理下にあるローカル・コモンズにおいて発生しやすい。

自然資源の管理制度は、非所有・共的所有制度から、公的・私的所有へと変容している。欠点も多く、その見直しが求められている。

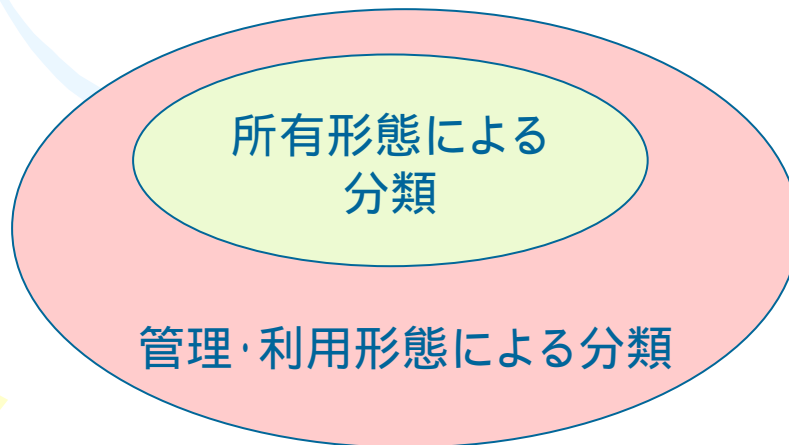
キーワード: コモンズ, 共同管理制度, 所有視点から管理視点, 参加型自然資源管理

コモンズとは？

共同管理制度のもとにある自然資源で、共同管理の対象である資源

“a resource to which no single decision-making unit holds exclusive title”

コモンズの範囲



所有より利用と管理に軸をおいた
コモンズ理解

- 1) 非所有(オープン・アクセス)の資源
- 2) グローバルな共有資源
- 3) ローカルな共有資源

自然資源の所有制度と種類

- 非所有(オープン・アクセス)

資源は誰の財産でもなく,すべての個人団体によって利用される。

- 公的所有制度

資源の所有権は国あるいは地方公共団体にあり,利用・管理も公的機関が行なう。

- 共的所有制度

資源は構成員によって行動で利用・管理される。

- ▶ コミュナル資源,共有資源,共同利用の資源(CPRs)

- 私的所有制度

消費の排除性と競合性をもつ財

P.9

コモンズを議論するわけ

食料資源の持続的利用は？

現 状

私的所有制度のもとで、食料資源の利用は個人および企業に任せられてきた

⇒ 資源の効率的利用に対するインセンティブ

国家によるトップ・ダウンの利用・管理体制が敷かれた

⇒ 近代的・科学的な資源管理制度の確立に向けたインセンティブ

問 題

資源利用における市場メカニズムの貫徹

地域社会と食料資源との関係が希薄化

特に無主物の資源の過度な利用

「コモンズの悲劇」の強調

G.ハーディンによる提起

イギリスの共同牧野

共有の牧草地で、多くの牧夫が牛を飼っている。全体の頭数がまだ少ないときには問題は起こらない。各人が牛を増やしても牧草地には余剰がある。だが、牛の数が増えるにつれて余力はなくなり、しだいに混雑現象が生じてくるであろう。やがて、これ以上増やし続ければ牧草は回復可能なダメージをこうむる臨界点に達する。

人間が合理的に行動するかぎり、牧夫はこの臨界点を踏み越えていく。

(テ) コモンズ論への道のり

インドネシア 焼畑農業に対する不当な評価

森林火災の原因とされたが、オイルパーム農園や産業造林地の開発が原因。

焼畑農業：住民が小規模に二次林を伐採して火入れし、農産物を生産。破壊的ではなく持続的。

持続的ではあるが脆い焼畑農業

人口が増加し、作物の需要が増えると、畑の休閑期間が短縮、面積を拡大する必要。

(テ) コモンズ論への道のり

ケニア人焼畑農業の技術的特徴

持続性

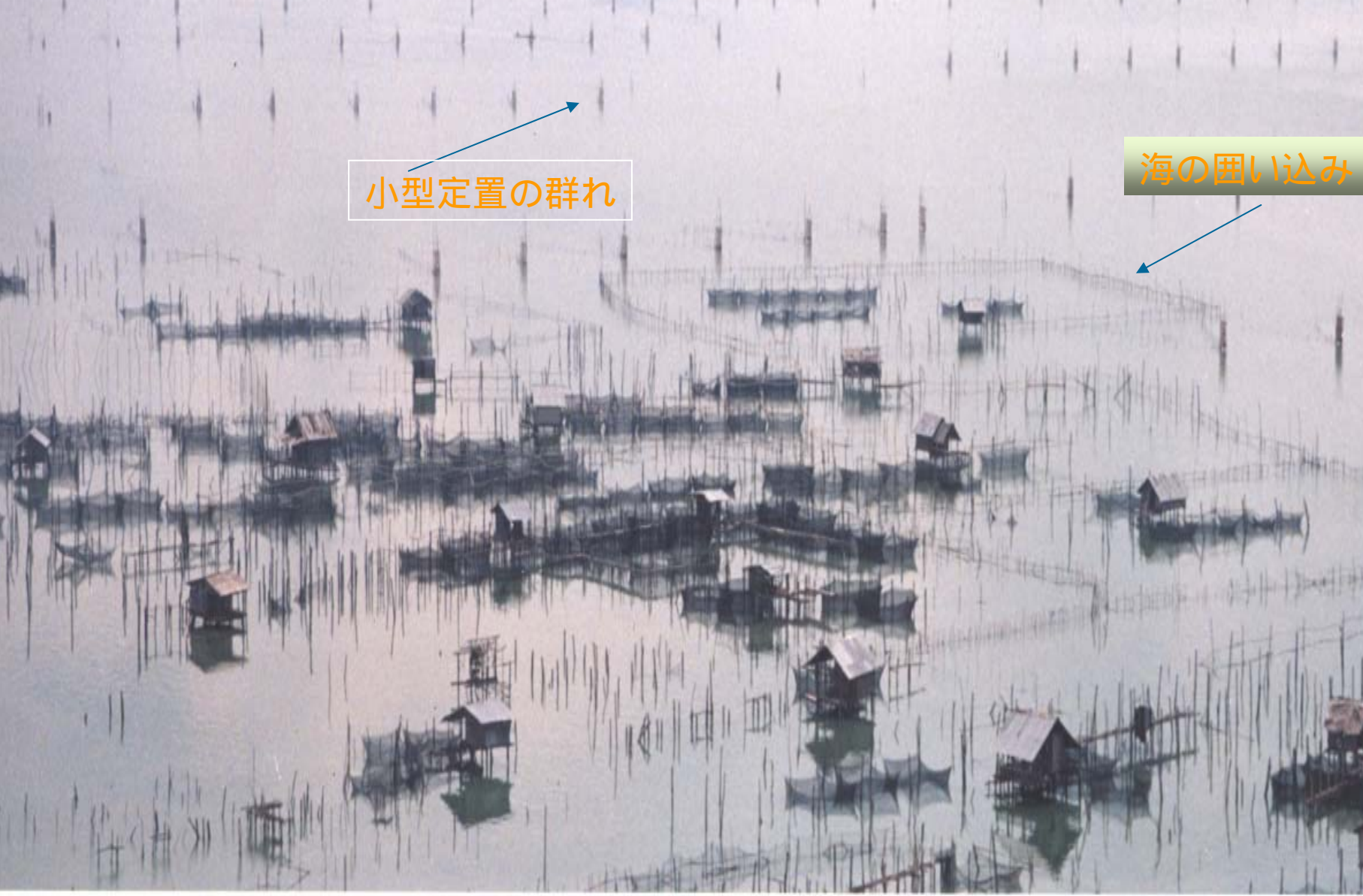
1) 焼畑農地の循環方式

2) 焼畑農地の由来

3) 連作しない

4) 燃え残った樹木の放置

5) 収穫時に穂先だけ刈り取る



小型定置の群れ

海の囲い込み

タイのソクラ湖：無秩序に設置された大型生簀と小型定置



ソクラ湖の生簀養殖:シーバス, グルッパー

(テ) コモンズへの道のり

資源の持続的利用

個人の行動・行為を規制する
社会規範



自己の欲求充足の
最大化

資源の持続的な利用がなされているかどうかは、個人的・私的な問題ではなく、社会的な問題

技術的側面に関連する自然科学はもとより、社会的存在としての人間を対象とする社会科学的なアプローチも有効な手段

(参考) 身近なコモンズ

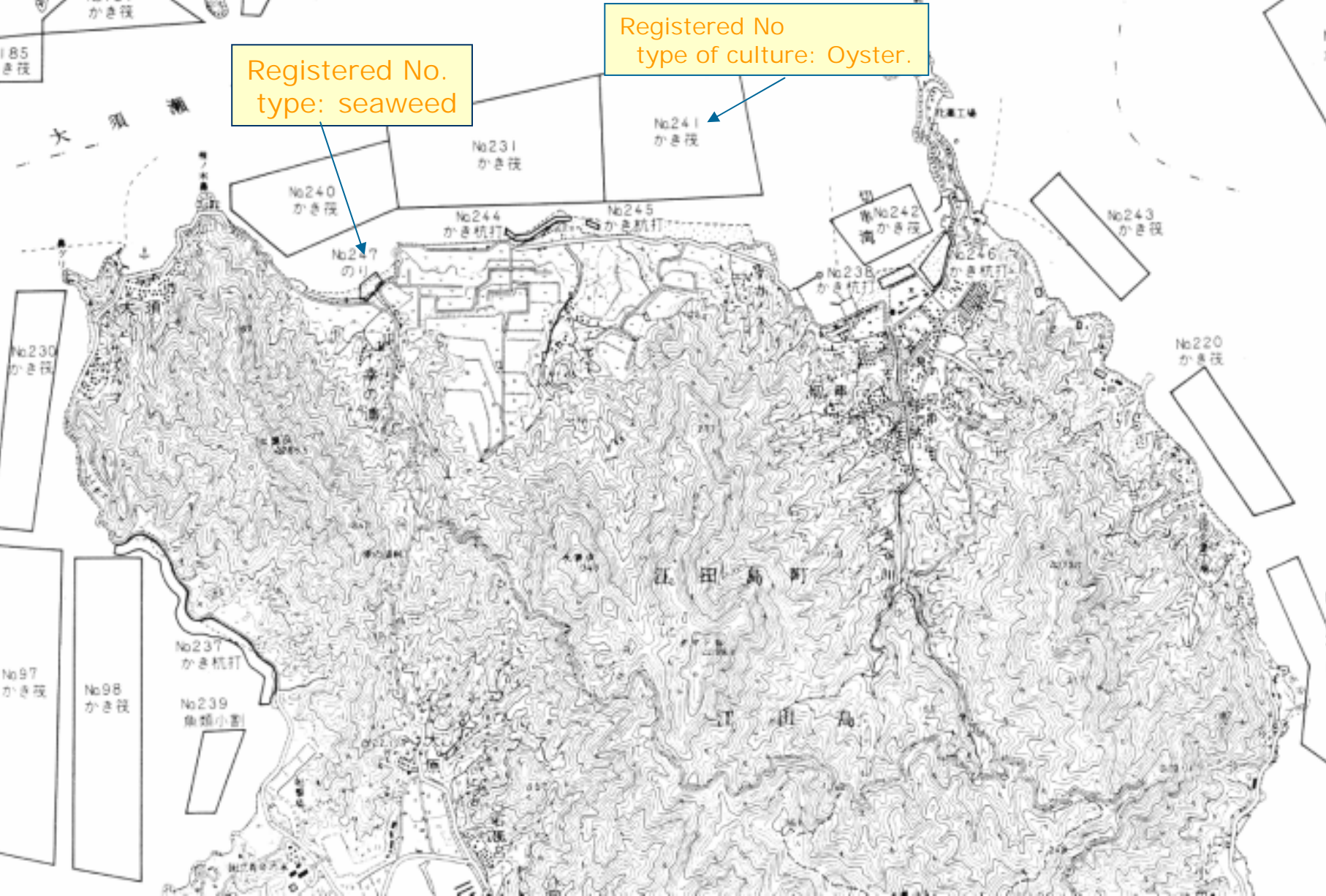
- 入会林野 (入会権: 林野の共同所有, 利用, 管理), 里山
- 共同利用海面 (漁業権: 個人の漁業行為の管理, 資源の共同利用)
- 水系共同利用 (水利権: 農業用水の確保, 管理, 配水)
etc.

ローカル・コモンズ

構成員への平等な配分
利用者間の利害の調整



江田島の共同漁業権地図



Registered No.
type: seaweed

Registered No
type of culture: Oyster.

江田島周辺の区画漁業権(かき, 魚養殖)



江田島周辺のかきいかだ：区画漁業権にしたがって整然と配置







コモンズの定義と 性質

(テ) 「コモンズ」がもつ意味

1) みんなの共有資源

ローカル・コモンズからグローバル・コモンズまで幅がある(オープン・アクセス資源と類似した概念含む)

2) 共有資源をめぐる人と人との関係を規定する所有制度

捉え方: グローバル・コモンズ, ローカル・コモンズを対象に広く議論。 P.10

(テ) 井上：利用と管理を中心に 着目

管理に着目する理由：

所有権 欲するままに財産を使用し，収益を獲得し，
財産を処分する権利

利用権 役に立つように物を用いる権利
所有者と異なる場合，利用権を有する者が使用し収益をえる。「用益権」

管理 財産の保存，利用，改良をはかること。管理権とは
他人の財産を管理する権利。
所有のありかたとは独立，利用を含む。 P. 11

演習問題 1

1) 東広島市内にある身近なコモンズを探してみよう。

里山, ため池, 灌漑, etc.

2) 誰が, どのようなグループの人たちが利用・管理しているのか聞いてみよう。

演習問題 2

- 1) 「コモンズの悲劇」に該当するような事例をあげなさい。
- 2) 「コモンズの悲劇」が起きる原因はなにか。
1) であげた事例にそくして述べなさい。
- 3) 「コモンズの悲劇」に直面したイギリスの牧野、その後所有形態はどのようになったと思うか。